

| | | | |
|--------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 1年 | 1単位 | 選択必修 |
| 担当教員 | | | |
| 瀧脇 憲 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | |
|-----------------------------|--|
| 講義概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の課題が多様化・複雑化する中で、地域のニーズを分析することで必要なサービス・事業の創出につながる手順を学ぶ。 ・福祉サービス・事業のイノベーションに取り組むゲストスピーカーを招聘し、実際の実践内容を理解する。 |
| 各回の進行予定 | <p>第1回 福祉ニーズをめぐる諸言説について考える（講義） M. イグナティエフを一例として</p> <p>第2回 ソーシャル・イノベーションのプロセスを学ぶ（講義と演習） 知識創造プロセスの概念を理解する</p> <p>第3回 事例に基づいてソーシャル・イノベーションを理解する（講義） ソーシャルセクター等の取り組み事例を検討する</p> <p>第4回 ソーシャル・イノベーションを計画する（演習） 各受講者のニーズ分析に基づき企画立案の演習を行う</p> <p>第5回 中間支援によるイノベーションの促進（講義） 外部講師事例から学ぶ</p> <p>第6回 中間支援によるイノベーションの促進（演習） 外部講師を交えてディスカッションする</p> <p>第7回 評価手法を用いて事例を分析する（講義） 社会的インパクト、参加型プログラム評価を理解する</p> <p>第8回 評価手法を用いて事例を分析する（演習） ソーシャルセクター等の取り組み事例の評価を検討する</p> |
| 講義のねらいと到達目標 | <p>【講義のねらい】 社会構造や福祉制度が変化する中で、新たなニーズに対応するには、地域事情に合ったサービス・事業の開発、多様なアクターの協働、制度の改善や運用の工夫、施策や政策の提言などが求められる。本稿では、知識創造プロセスの考え方を活用し、社会課題の“ソリューション”を構想する力を陶冶したい。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル・イノベーションのプロセスを理解できる。 ・イノベーションを企画立案または支援するための討議に習熟する。 ・社会的インパクト、参加型評価の手法を理解できる。 |
| 指定教科書(テキスト) | 特に定めない。毎回講義資料を配布する。 |
| 参考文献・関連URL等 | M. イグナティエフ『ニーズ・オブ・ストレンジャーズ』：風行社，1999 上野千鶴子・中西正司編『ニーズ中心の福祉社会へ』：医学書院，2008 野中郁次郎・竹内弘高『知識創造企業』：東洋経済新報社，1996 源由理子『参加型評価』：晃洋書房，2016 |
| 出欠確認方法 | 教員による目視ならびにリアクションペーパーにて確認する。3回以上欠席した者の単位認定はできない。 |
| 成績評価の方法 | 評価は到達目標の達成状況を踏まえて行う。 ・レポート（60点）。課題と評価基準は講義で示す。 ・リアクションペーパー（40点）。評価基準は講義で示す。 |
| 成績評価基準の内容 | 60点以上を可とし、60点未満の場合は不可とする。 |
| 事前・事後学習のためのアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中は、「講義」⇔「事例」を繰り返し、教員や学生との対話を通じて学びを深める。毎回グループディスカッションを行う。 ・リアクションペーパーでの質問・意見はなるべく講義・演習に反映する。 |
| 他の科目との関連、教育課程の中での位置づけ、キーワード | キーワード：ソーシャル・イノベーション、知識創造プロセス、社会的インパクト、参加型評価 |
| ベンチマーク | この科目で獲得を目指すディプロマ・ポリシーについて次のように優先順位を位置づけています。 1. ア 福祉実践とその現場の創造的な発展に必要な基本的な知識を修得した者 2. イ 理論と実践の両面にわたる能力を備えている者 3. ウ 価値を基盤とした職業的倫理を深く理解した実践的な専門的職業人である者 |